

いしはら
石原 ヒサ子さん
(堀米町)

○プロフィール
佐野法人会女性部部长
株式会社石原保険代表取締役



キラリ★ 話題の「ひと」

税への理解と 社会貢献活動を通じて

佐 野法人会は、会員である中小企業や個人事業主に對して、経営と税金に関する勉強会や、経営者の自己啓発を目的とした講演会や交流会を開催しています。そして女性部としては、主に社会貢献活動や租税教育を行っています。

同会女性部では社会貢献活動として、楽しみながら手を洗い感染予防対策に役立ててもらおうと、動物やお花が描かれた紙ナプキンを切り取り、専用ののりで固形石けんに貼り付けたデコパージュ石けんを制作し、市立小学校と義務教育学校へ寄贈しています。

また、小学生への租税教育活動として、絵ハガキコンクールを開催し、子どもたちに税の大切さ、税の果たす役割について学んでもらう活動もしています。審査会・表彰式についても女性部が行っているとのこと。

今後の女性部の活動としては、会員の皆さんの意見を参考にし、より一層、活動の幅を広げ、一人でも多くの方に法人会女性部の活動を理解していただき、一緒に活

動できる仲間を増やしていきたいという広報活動にも力を入れていきたいとのこと。

石原さんは、これからの抱負として「私は保険代理店の仕事をしております。この仕事は形の見えないものですが、人生に深く寄り添い、ライフプランに欠かせない大切な仕事だと思っています。この仕事を通じて得られた知識や情報で、その方の人生を豊かにするお手伝いをしていきたいと思っています。また、女性部の活動を通して、小学生たちに税の大切さや感染症予防対策の重要性を楽しく理解してもらえたら嬉しいです」と笑顔で答えてくださいました。

(市民記者 中里聖子)



▲デコパージュ石けんの寄贈の様子

市長からの メッセージ

今年に入り、全国的に新型コロナウイルスの感染者が大きく増加し、本市においても新規感染が続いております。ワクチン接種を2回した場合でも決して油断せず、基本的な感染防止の徹底を改めてお願いします。また、発熱などの症状がない方で感染に不安がある方は、県が指定する市内の薬局などで無料のPCR等検査や本市独自の抗原定量検査がありますので、積極的に活用してください。ワクチン接種については、先月より2回目接種から7カ月が経過した65歳以上の方に3回目の接種券を発送しました。届いた方から予約をしていただき、接種をお願いします。なお、コールセンターやインターネットでの予約が難しい場合は、2月8日(火)まで毎月曜・火曜日にイオンタウン佐野で予約相談窓口を設けておりますので、こちらも活用してください。

さて、ここで少し明るい話題を皆さんにお伝えしたいと思います。昨年、民間企業で行ったアンケートの栃木県の住み続けたい街ランキングで佐野市が堂々の1位に輝きました。知らなかった人も多いのではないのでしょうか。今後もこういった市民の皆さんに知られていない明るい情報もお伝えできたらと考えております。

今月は第1弾として、農作物です。佐野市が生産量県内1位の果物や野菜はなんでしょう？

答えは、スカイベリー(いちご)、桃、イチジク、かき菜の4つです。いちごの生産と言えば栃木県、その中でもいちごの品種スカイベリーは佐野市が1位なんです。また、桃については県内の生産の90%以上が佐野市で作られております。驚いた方も多いのではないのでしょうか。今後も我慢の日々は続きそうですが、明るく市政運営を行っていきたく思いますので、ご協力をお願いします。

金子 裕

今回の表紙 「佐野市成人式(葛生会場)」令和4年1月9日撮影

佐野・田沼・葛生の3つの会場で成人式が開催され、約900人の新成人が出席しました。晴れ着姿の新成人たちで、会場は華やかな雰囲気にも包まれていました。





唐沢山を歩く

唐 沢山といえば城跡、神社などでなじみあるところですが、ハイキングの山としても人気があります。ハイキングコースは、栃本町始点のものが2つあります。また、奈良瀬町、富士町などが始点のコースもあります。珍しい花、蝶、鳥もいて豊かな自然が保たれています。また秋から春にかけては、南には丹沢、富士山、奥多摩、奥秩父などの山々や、新宿のビルやスカイツリーなどが見え、北には日光、足尾の山々を望むことができます。寒い時期ですが、健康維持のため、唐沢山歩きはいかがでしょうか。足に自信がなければ、山頂付近まで車で行けるのもありがたいです。

(市民記者 福田満)



▲山頂見晴らし小屋から唐澤山神社を望む

県立佐野高校・附属中学校が教育奨励賞努力賞を受賞しました

教 育奨励賞は、創造性に富んだ特色ある教育の実践に顕著な業績を挙げた学校などを表彰するもので、時事通信社主催で毎年実施しています。同校は、2016年度から2020年度まで、文部科学省からスーパーグローバルハイスクール（SGH）の指定を受けたことをきっかけに「国際人として活躍できる真のリーダーの育成」を教育目標に掲げ、地元の偉人「田中正造」をリーダーのモデルに設定しています。生徒たち自身が身近に潜む社会的な課題を発見し、研究によって解決策を模索することで、リーダーたる人物の資質や能力の獲得を目指しています。SGH終了後の2021年度からは「Sanoグローバル構想」を設定し、グローバルな視点を持ってコミュニティーを支えるグローバルリーダーの育成を目指しています。これらの取り組みが評価されたことにより、今回の受賞につながりました。



▲課題研究発表会の様子

「べろ」は食べ物や物を噛んだり、食道へ送り込んだりするはたらきをします。また、味噌汁や飲料水を飲むときに、熱さや冷たさを感じるのも「べろ」のはたらきです。その大事な「べろ」の表面が白っぽくなったり、ざらざらになったりすることがあります。このような状態になることを「べろ」が「荒れる」といいますが、方言ではべろが「ソキル」といいます。

「隣のチのばあさんに、べろがソキチャツタツテ（ソキタと）いったら、そうだったナ（のは）、食べ過ぎたンダーンバー。なんていわれチャツタ」

このように、ソキルは「べろ」が荒れて白っぽくなるさまをいいます。肌などが荒れることはソキルといいません。「べろ」がソキで食欲がない話をする時、明治・大正生まれの人たちは「胃でもワリンジャーネーケー（わるいのではないですか）」などといったものです。

病気に関するもう一つの方言に「キュースナル」があります。悲惨な交通事故を見て、そのショックで気を失ったとか、子どもなどが風邪による高熱で発作を起こしたなどという話を聞くことがあります。このように意識が突然なくなることをキュースナルといいます。キュースナルは、「気を失う」が変化したもので昭和の中頃まで使っていました。「子どもが川原でハシリックラ（走り遊び）をしていたら、オツクルケって（転んで）石つこに頭をぶつけて、キュースナツタことがあったよ」

(市民記者 森下喜二)

